



老後のリタイア生活を求め南国へ

齋藤 晃さん（フィリピン・マニラ在住）



▲マニラ郊外から

川崎市からフィリピンに移住

フィリピンは日本と同じ島国で、大太平洋に浮かぶ7,107もの島々からなります。アジアの中でも特にフィリピンは、中国・ヨーロッパ・アメリカ・アジアの生活様式と文化が一堂に会しており、宗教はイスラム教や仏教国の多いアジア圏では唯一のカトリック教国です。東京からマニラまで飛行機で約4時間と比較的近く、歴史的に日本との関わりも深い南国フィリピンに、私は老後のリタイア生活を求めて川崎市から移住し、10年ほど滞在しています。

大都市「マニラ」

マニラには、日本でもお目にかかれないような広大で豪華な、ショッピングモールの世界ランク上位に幾つも顔を連ねるモールがたくさんあるかと思えば、都心部から少し離れ、幹線道路から少し外れると、地方から次々と流入する貧困層や不法居住者が形成するスラムがあります。開発途上国によくある課題ですが、失業率は高く、経済格差は依然大きいです。

国全体の経済は好調で、都心部には63階建ての高級コンドミニアムや

オフィスビルの建築ラッシュが続いていて、日本車を中心に新車販売も上々です。しかしながら、成長が加速するフィリピン国内では交通インフラ整備が追いつかず、都心部は朝から夜まで慢性的な渋滞が続いています。鉄道路線は都心部に数本しかなく、一般的な移動手段としては遠距離バスやフェリー等が主で、マニラ市内では「ジプニー」と呼ばれるジープを改造して運行しているバスが一般的に利用されています。しかし、そんな都心を離れると、世界中に愛されているビーチリゾートが多数あります。綺麗な景色だけではなく、おしゃれなレストランやホテルが続々と登場して、世界中から観光客が押し寄せています。

あたたかい人々、絆、空気

フィリピンの人々は明るく元気、寛容で優しいです。フィリピン人の家にパーティーなどで遊びに行くと、いつも大歓迎してくれます。誕生日や記念日をとても大事にする国民性で、一般庶民の家庭でもたくさんの料理を用意してゲストを迎えます。料理は中国料理やスペイン料理の流れを組む料理が多く、誕生日などは



▲都心部の慢性的な渋滞



▲一般的なバス「ジプニー」

中国文化の流れか、長生きする意味で長い麺類が必ず振る舞われますが、フィリピン人の好むバナナケチャップで味付けした甘いスパゲティーが定番です。富裕層のお宅では子豚の丸焼き等も出てきますが、パリパリの香ばしく焼けた皮は絶品です。スーパーマーケットでもカット肉が皮付きで販売され、さまざまな料理に使われています。

核家族化で日本が失いつつある「家族の絆」が今も強く、家族をととても大切にするフィリピンの暮らしは、貧しくても楽しかった思い出のある、ちょうど私が生まれた日本の昭和30年代を思い出させてくれます。また、1年中温暖な気候が、私のリタイア生活には最適地と感じています。

(文・写真：齋藤晃さん)

